

高千穂商事・高千穂化学工業

創業者で前会長、103歳で死去

「江上正を偲ぶ会」を開催

高千穂商事・高千穂化学工業は、9月18日、東京・港区の国際文化会館で、創業者で今年4月に103歳で逝去した江上正代表取締役会長を偲び、「江上正を偲ぶ会」を受け継がれる特殊ガスの魂の絆」を開催した。学界・業界関係者など約240名が参加し、記念講演や江上会長の歩みやインタビューを紹介した。

24年に日本初の高純度アルゴンガスの開発に成功し製品化、昭和25年に現・高千穂化学工業を設立した。

江上正氏は大正3年福岡県久留米市生まれ。東京工業大学応用化学科卒業後、昭和電線電纜研究所、陸軍航空兵科応召技術将校、保土ヶ谷化学研究所などを経て、昭和23年に特殊ガス開発のため

「偲ぶ会」では、江上氏の母校である東京工業大学OBでベンチャー企業を立ち上げたリバーフィールド(株)、原口大輔代表取締役と(株)レゾニックジャパンの川口卓志代表取締役が記念講演を行った後、東京工業大学名誉教授の半那純一氏、元大阪酸素工業(株)社長の田村公孝氏、トヨタテクニカルデベロップメント(株)計測分析室長の高橋篤氏の3人から追悼の辞が述べられた。

昭和の会社を設立した。昭和

これに対し、高千穂商事・高千穂化学工業の江上真紀代表取締役社長が「戦後、日本の高度成長

特殊ガスのビジネスで日本のガス業界に貢献



謝辞を述べる江上社長



期に欠かせなかった工業ガス。その中で特殊ガスなるものを初めて作り、その市場を作り上げてきた父と高千穂。これまで以上に日本初、世界初、オンリーワンの製品を増やし、海外のお客様からも高千穂ならやってくれる、という期待に応えて行きます。父、正の遺志を継ぎ、高千穂一同、さらなる社業の発展に力を尽くす所存です」と謝辞を述べた。